

[平成20年度普及に移す技術]

[技術名] 秋咲きアリウムのガーデニング用新品種「ハイブリッドアリウム5号」

[要約] ラッキョウとイトラッキョウの白花種とを交配し、子房培養により育成した「ハイブリッドアリウム5号」は、「オータムヴィオレ」より花茎が短く、花球も小さく全体に小型で、花茎数が多いので花壇植えに適し、「オータムヴィオレミニ」より花卉の色が淡い。

[キーワード] ガーデニング、秋咲きアリウム、ラッキョウ、子房培養

[担当] 福井農試・園芸バイテク部・バイテク研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100

電子メール y-nomura-fk@pref.fukui.lg.jp

[背景・ねらい]

平成15年8月に品種登録された秋咲きアリウム「オータムヴィオレ」は切花用の品種であるが、秋咲きの草花は種類が少なくガーデニング用としても有望である。そこで、先ほど、「オータムヴィオレ」の花壇用小型品種「オータムヴィオレミニ」を育成した。今回は、その色違い品種を育成することで花色のパラエティーを増やし、福井独特の花壇や景観形成を促進する。

[技術の内容・特徴]

1. 「ハイブリッドアリウム5号」はラッキョウ「ラクダ系福井在来」にイトラッキョウの白花種を交雑し、子房培養により雑種個体を得て系統選抜したものである。
2. 花茎は18cm程度と「オータムヴィオレミニ」より短く細い。花茎の数は1株あたり6～7本あり、「オータムヴィオレミニ」と同様に小型であるため花壇用植栽に適する(表1、図1)。
3. 花球径は3cm前後で、小花数は「オータムヴィオレミニ」より少ないため1株ではやや貧弱に感じるが集団で開花するとボリューム感が出る。花卉の色は紫ピンク(JHS8903)で「オータムヴィオレミニ」の鮮紫(JHS8605)や「オータムヴィオレ」の明赤味紫(JHS8905)に比べて極淡い(表1、図2)。
4. 開花始めは10月22日頃で(表1)、観賞期間は20日以上ある。
5. 分球によって容易に増殖する。
6. 植付け当年の開花数は少ないが2～4年目は球根の分球が進み開花数が多くなる。

[技術の活用面・留意点]

1. 夏に葉が枯れて休眠するので、その頃に球根を掘り上げて3～4球ずつに分割して植え付けるとその年の秋から開花する。
2. 植え付け後3～4年はそのままで観賞できるが、その後は株が込み合いすぎて開花数が減るので、球根を分割して植え替える。

[普及計画]

普及目標：販売株数 10,000株

普及対象：種苗生産農家

普及に向けた対応：花苗生産農家等に対する情報提供、研修会での情報提供、栽培マニュアルの作成、フィールドレポート・HPへの掲載、原苗の供給

[具体的データ]

表1 ハイブリッドアリウム5号、オータムヴィオレミニ、オータムヴィオレの開花特性比較

品種	植付 球重 (g)	花茎			花球		小花		花弁の色	開花始め (月/日)
		長さ (cm)	径 (mm)	数 本	縦径 (cm)	横径 (cm)	数	径 (mm)		
ハイブリッドアリウム5号	4.6	17.8	1.7	6.4	2.9	3.5	21	9.4	紫ピンク(8903)	10/22
オータムヴィオレミニ	2.7	26.5	2.2	8.5	3.2	3.5	61	8.3	鮮紫(8605)	10/15
オータムヴィオレ	9.2	37.8	2.9	4.7	4.9	5.2	56	9.5	明赤味紫(8905)	10/27

*花茎数は1株当たり、開花始めは株の中で最初の1花が開花したとき、その他のデータは1株の中で最も充実した花茎の平均、花弁の色は日本園芸植物標準色表による。8月に1球植えて定植し翌年の秋に調査した。



図1 オータムヴィオレ(左)、オータムヴィオレミニ(中)、ハイブリッドアリウム5号(右)の草姿(バーは50cm)



図2 オータムヴィオレミニ(左:2年株)とハイブリッドアリウム5号(右:3年株)の植栽状況

[その他]

研究課題名: 胚培養等による新品種育成

研究期間: 1999~2008年

研究担当者: 野村幸雄、斉藤稔